

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200529		
法人名	社会福祉法人 豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニットひまわり	ユニット名	さくら
所在地	宮崎県都城市蓑原町1839番地9		
自己評価作成日	平成26年4月15日	評価結果市町村受理日	平成26年8月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kainokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&amp;ijiyosyoCd=4570200529-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kainokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&amp;ijiyosyoCd=4570200529-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年6月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意味を理解し実践できるよう、毎朝職員で唱和を行い、サービス向上に努めている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(公民館総会・春記念・秋記念・地区祭り・夏まつり)等に参加し、協力を頂きながら、地域に理解されるよう努力している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員の継続的な参加により、近隣の方で認知症状況にある方の情報提供などについて情報交換をおこなっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特別ゲストに消防署職員を招き、災害・防災等について講演を頂いたり、地域包括支援センター職員参加で地域の情報交換ができています。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の身体状況変化時のケアプラン修正及び追記等についての相談や、運営推進会議参加メンバーの一員として、日頃、ありのままの様子を見て頂き助言や相談が気軽にできるよう努めている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に積極的に参加し、研修報告(事例を参考)に勉強会を行い、全職員の質向上に努めている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会等に積極的に参加し、研修報告を基に勉強会を設けている。また、申し送り時、継続的に身体チェックをすることで防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている方もおられ、学ぶことが多い。ご家族からの相談にも必要に応じ、説明を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時等は読み合わせを行い、十分な説明を行い、納得された後、サイン及び押印にて確認をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で、毎回利用者自身の言葉で、困っていること・要望・不安に思っていること等を率直に言えるようにしている。ご家族には年2回アンケート実施や面会時、日頃の様子を伝え、意見や要望を聞き取っている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や日々のミーティングの中で、意見交換を行っている。年2回の人事考課では、全員面談の時間を設け、資格取得や各自の目標、要望等を確認しながら、就業意欲や質向上に繋いでいる。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、月1回の職員会議やヒアリングを通し、意見交換を行っている。年間事業計画状況報告においては、月次活動報告書の中で、日々の業務内容・勉強会・研修参加等、取り組み状況を報告している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を通じ研修報告書を作成。回覧で周知したり、勉強会を設けたりしながら、実践に繋げている。実践に活かすことで、職員の質向上および技術向上に働きかけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都城市社会福祉連絡協議会主催の研修会にも会員として積極的に参加し、サービスの質向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、目線を合わせ、話す時の表情を確認しながら笑顔で接し、安心感を持って頂けるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いやこれまでの関係性に配慮し、これまでの歩み等を聞き取り、要望等をケアプランに反映させている。また、情報共有の有無を確認し、面会時、どの職員が対応しても不信感を抱かせないように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	かかりつけ医の情報、サービス先の情報、本人、家族からの情報を踏まえ、ご家族の想いや困りごと、要望等に耳を傾けながら関係づくりに努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴や心身の情報等から、できること、できるかもしれない得意なこと等を踏まえ、本人の意思や意向を尊重しながら接している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事時を通じ、本人の暮らしぶり(日中の様子・夜間での様子・食事摂取状況・体重・服薬内容・他利用者との友人関係・職員の異動)等、随時報告している。また、写真掲示を見ながら説明をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの面会時は、会話がしやすい様な環境をつくったり、出先でばったり会った時などは、話せるきっかけづくりに努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶碗洗いや茶碗拭き、洗濯たたみ、洗濯干し等を通じ、利用者同士ができることに職員が間に入り支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所が発生した場合でも、主治医、専門医、本人、家族を含め経過を追いながら必要時には相談に応じている。また、グループ内地域連携担当職員の存在で、本人、ご家族の相談や支援に繋いでいる。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に耳を傾け、工夫をしたり、スタッフ同士で話し合い、希望に近づけている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、これまでの趣味や得意なことを聞き取り、本人が好んで積極的に参加できるように支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり顔色、体の傾き、声、表情等の身体状況を確認しながら、日常的な外出支援(散歩含む)を行っている。また、家事療法・園芸療法・学習療法等を通して無理のない程度で一緒に行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でモニタリングを作成し、新たな発見や状況をその都度確認し、情報を共有している。また、担当者会議では、家族、職員、関係機関(状況に応じ)と情報交換を行い、介護計画に反映させている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、共同生活介護記録に個別に記入し、個人の変化、気づきに関しては、共有しながら介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じ、受診付き添い、通院送迎等のサービスを支援している。			

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットひまわり(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を活用し、外出、外食、地域住民との触れ合い(地区まつり・作品展)に出かける等、普段の暮らしや雰囲気味わえるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科・精神科専門外来・歯科)との連携により、往診、外来受診を含め、健康管理に努めている。また、在宅からのかかりつけ医を希望される方は、継続して受診できるように支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前、午後のバイタル測定時や些細な体調変化を見逃さず、協力医療機関の看護師に連絡・相談・報告で、医療支援に繋いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、主治医または専門医、家族、を含めドクターからの説明を受けている。入院中の経過を追いながら状況を踏まえ、本人、家族の希望に添えるよう情報共有を行い、その後の支援に結びつけている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時や重度化に伴う意思確認では、入所時や介護保険申請時、身体状況変化時、受診結果等を踏まえ、事業所でできるケア等、その都度説明を行っている。重度化した場合であっても、家族の意向を確認しながら、ぎりぎりまで医療を常に必要とする状況まで支援に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修報告内容や事例を通し、急変や緊急時に備え、訓練を常に行っている。特に朝礼やスタッフ会議を利用し、全職員が対応できるように実演をしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員、設備点検業者、家族、近隣事業所職員を含めた防災訓練を行っている。地域民生委員、公民館役員の連絡網を活用している。			

自己	外部	項目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持や会話を尊重し、さりげない声かけと優しい声掛けで対応している。拒否等が強い時には、無理せず本人が自己決定しやすい雰囲気づくりに努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で、本人の好みや希望を聞き取り、話題が広がるように努め、自己決定ができるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人にながしたいかの希望を確認し利用者のペースに合わせた支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着たい服を選んでもらったり、自分で長い髪をとけるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に献立を読み上げてもらうことで、メニューにも興味を示して頂けるよう支援している。また、茶碗洗いや茶碗拭き等自分の役割を持ち、職員から感謝の気持ちを伝えることで、本人が自信を持てるよう支援している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量の把握と水分摂取量を記録することで、全職員が把握し健康管理に努めている。特に、排便、排尿、体重が把握できるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、見守りをしながら支援をしているが、自分で磨ける方には歯ブラシを渡している。一部介助の方には、本人の確認をとり磨き直しをしている。			

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットひまわり(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にはトイレ誘導することで、尿取りパットの使用が減った利用者もあり、尿意感覚が把握でき、自立支援に努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、早朝の牛乳提供やおやつにさつま芋を提供したりしている。また、夏野菜の収穫時期には、野菜ジュースを提供したり、適度な運動では毎日の散歩に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各ユニット交互に入浴日があり、入浴順番にこだわる方への対応や入浴の言葉に対し強い拒否がある方への対応では、自然とその場へ行く雰囲気をつくり、さりげない言葉かけを行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常的に散歩や活動を取り入れ、眠れるように支援している。天気の良い日には布団干しや定期的にシーツを洗ったりしている。入眠を促す工夫として、本、ラジオ、梅酒、ホットミルク等で好みに応じた対応で支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット内に薬台帳を置き、職員がいつでも見られるようにしている。また、家族にも定期的に服用されている薬の説明書を配布している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事療法等は、自分の得意なものができるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望の強い方と職員と一緒に自宅や家族へ書類を届けに行ったり、行政機関等に書類を届けに行ったりすることで安定を図っている。			



自己	外部	項目	自己評価	さくら	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけたりした時には、商品を選んで、自身で支払いができる様支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人から電話があった際は、本人と会話ができる様に努めている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、テレビ観賞や音楽を流し、居心地の良い環境づくりに努めている。玄関、テーブル、トイレには、四季折々の花や植物を飾っている。中庭の畑では、野菜の成長を見守りながら、収穫で季節感を味わえるよう支援している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で座る場所には、気の合う利用者同士を隣にしたり、工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段の生活の中で使用されていた物を持ちこんで頂き、自分の持ち物で安心して頂けるよう家族の協力を求めている。布団であったり、衣類、タンス、小物、掛け軸、履物等で工夫をしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等すべてに手すりを付け、なるべく自身の力で安全に行動できるようにしている。自身で行ける工夫として、トイレの文字表示や自室に写真を飾ったりしている。			